

自動車ユーザー連携賞

日本カーシェアリング協会

クルマを活用した新しい支え合いの仕組みをつくる活動

被災者の足を確保する支援が発展

日本カーシェアリング協会（吉澤武彦代表理事、宮城県石巻市）は2011年7月、東日本大震災で被災した住民の移動を支える目的で発足した。当初は、車両を確保し運転ができない高齢者などの移動支援を行っていたが、他地域へ転居を余儀なくされた住民へのサポートや近隣同士の支え合いを築ききっかけになるなど活動が広がり、車を活用した新しい支え合いの仕組みづくりへと発展している。

自治体などとも連携



石巻市では、津波により居住することになったものの、多くが市街地から離れた場所に建設されたことから、病院や商店街などへの移動手段を確保する生活支援は行政も対応しきれず、大きな課題となっていた。被災者の「足を確保」する支援が、地域コミュニティで車をシェアし、薬

支援体制を強固にすることを目的とした「モビリティ・レジリエンス・アライアンス」の発足につながった。提供した軽トラックなどにより、支援団体やボランティアセンターの活動の円滑化を図るとともに、災害時に発生する大量の廃棄物の処理が、より進展するようになった。それとともに、家も車両も失い途方に暮れる被災者の生活再建が前に進むようになった。さらに、被災地では、同協会を介して自治体や自動車関係団体などの連携が生まれ、車両の確保や現地での活動場所の確保などに時間を要するという課題を解消し、迅速な支援への足掛かりとなった。

〈受賞者コメント〉東日本大震災後の石巻で無我夢中で取り組んできたこの活動は様々な方に支えられてきました。活用する車は全て寄付いただいたもので、自治体、企業、大学、財団、NPO、多くのボランティアの皆様と連携させて頂いております。今回、自動車ユーザー連携賞として評価いただいたことは、そんな皆様と一緒に受賞したと受け止めており、本当に嬉しく、共にその喜びをかみしめたいと思います。